



UACJ

株主の皆様へ

2017年3月期 上半期報告

2016年4月1日～2016年9月30日

特集

事業拡大が進む戦略商品
“自動車用部材”

株式会社UACJ

証券コード：5741



地金価格下落の影響がありましたが、
販売数量の増加やコストダウンにより
経常利益で増益を確保しました。

代表取締役社長 **岡田 満**

当上半期を振り返って

当社グループでは、世界的なアルミニウム需要の高まりにお応えするとともに、この好機を活かしてグローバルマーケットでの確かな成長を実現するため、近年、拠点の新設やM&Aなど戦略的な投資を積極的に実施してきました。経営統合から4年目となる当期は、これらの先行投資により、コストや品質、生産量など、あらゆる面で世界的な競争力を持つグローバル生産体制となり、具体的な成果を見せ始める一年になると考えています。

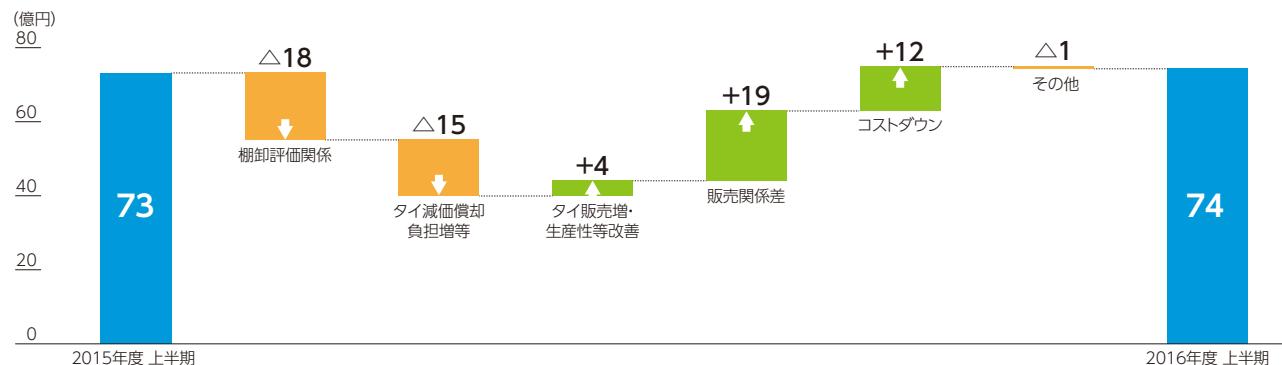
当上半期は、世界経済が緩やかな回復基調を見せるなかで、アルミニウム圧延品業界の国内需要が対前年同期比で増加しました。なかでも、ボトル缶需要が好調な飲料缶分野、ボディ材にアルミニウムを採用した人気車種のモデルチェンジにともなう需要増が継続した自動車分野を中心として、主力となる板材の需要は堅調な推移を見せました。また、押出材については、引き続

き好調なトラック・バス関連の需要が全体をけん引して、内需総量も対前年同期比で微増となりました。

このような市場環境を背景に、当社グループの売上数量は前年同期を上回りましたが、地金価格の下落の影響を受け、売上高は2,789億円(前年同期比4.3%減)となりました。

損益面では、地金価格下落にともなう棚卸評価関係の悪化の影響があったものの、売上数量の増加や構造改革によるコストダウンの成果などにより、営業利益は104億円(同16.9%増)と、大幅な増益となりました。経常利益については、米国での自動車パネル用アルミニウム材製造・販売事業の立ち上げにともなう持分法投資損益の影響や、戦略投資にともなう利息負担の増加などにより、74億円(同0.9%増)に留まりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益については、前年同期に特別利益として受取保険金を計上した反動で、22億円(同50.0%減)となりました。

連結経常損益分析



グローバル生産体制の強化について

当社グループは、アルミニウム市場のなかでも中長期的な成長が期待できる自動車用部材と安定的な需要のある缶材を戦略的に重要な商品と位置付けています。これらの供給体制を強化すべく、重点的な投資を実行してきましたが、当上半期においても着実な進展を見せています。

自動車用アルミニウム材の対応用途を拡大

自動車業界では、燃費規制の強化に対応するため、幅広い用途でアルミニウム材の導入が進んでいます。こうした変化を着実に事業成長へとつなげるため、従来から注力してきたパネル材や熱交換器材に加えて、構造材の供給力強化にも取り組んでいます。

2016年4月には、この構造材分野における北米の

リーディングカンパニーをグループに迎え、UACJ Automotive Whitehall Industries, Inc.(以下UWH)として新たなスタートを切りました。構造材には安全性を担保するための技術力と信頼性が求められますが、M&Aによって北米No.1のブランドが加わったことで、短期間で強固な競争力を確保できました。

当社グループは、これまでも北米において、パネル材の製造販売会社Constellium-UACJ ABS LLC(以下CUA)を立ち上げており、その新工場が2016年6月に稼働を開始し、連結子会社であるTri-Arrows Aluminum Inc.が共同運営するローガン工場から母材の供給を受けています。ここにUWHが加わることで、北米における自動車用部材の供給体制はさらに充実しました。

こうしたグループ力を最大限に発揮するため、2016年10月から「自動車事業推進本部」を新設しました。



グループに加わった米国UWHの工場



新設された米国CUAの工場

各部門・各グループ会社の自動車関連ビジネスを横断して情報共有を進め、事業戦略の検討や新製品の開発に反映させます。

缶材のグローバル供給体制を強化

当社グループでは、世界的な飲料缶の需要増に対応するために、グローバルな生産・供給体制を強化してきました。

国内では、統合以来進めてきた生産体制再構築の一環として、福井製造所に缶材の生産を集約。生産効率の向上により、競争力をさらに高めています。

世界最大の缶材市場である北米では、世界最大規模の圧延工場であるローガン工場が、世界トップクラスと評価される高いコスト競争力を発揮しています。前述のように、同工場は自動車用部材の母材供給も担っていくこととなりますが、生産能力を増強することで、缶材の生産量も維持していきます。

経済成長や人口増を背景に飲料缶の需要が増大するアジアでは、2012年からタイに建設を進めてきたUACJ (Thailand) Co., Ltd.ラヨン製造所の一貫生産が本格化し、2016年10月には月産1万トンに到達しました。今後もさらなる需要の高まりに応えるべく、生産量を増強する計画です。

このように、日本、北米、タイの3極による缶材のグローバル供給体制を整備することで、この分野における世界的な競争力を強化し、需要の伸びを着実に業績へと反映させていく考えです。

今後の見通しと株主還元について

当期は3カ年の中期経営計画「Global Step I」の2期目となります。最終年度となる来期の目標達成に向けて、各施策の成果を具現化していくとともに、さらにその先の成長を実現するための布石を打っていく必要があります。今後も戦略的な投資をタイミングを逸することなく実施していく計画ですが、過剰投資にならないよう、財務体質と市場の需要動向を冷静に見極めながら判断していきます。

また、統合以来進めてきた国内生産拠点における生産品種の整理・集約については、概ね予定通り実行しています。今後も需要動向を見ながら、最適な生産体制の構築を進めてまいります。

通期の業績予想としては、期首に掲げた通り、売上高6,000億円、営業利益245億円、経常利益200億円、親会社株主に帰属する当期純利益90億円と、増収増益を見込んでいます。

株主の皆様への配当につきましても、期首の計画通り、中間期は1株につき3円を実施し、期末3円、年間合計6円を予定しています。

株主の皆様には、今後のUACJグループの成長にご期待いただくとともに、引き続きご指導、ご支援を賜りますよう、何卒よろしくごお願い申し上げます。

事業拡大が進む戦略商品“自動車用部材”

温暖化防止に向けて世界各地で自動車の燃費規制が強化されるなか、自動車業界では車体の軽量化を目的としたアルミニウムの採用が進んでいます。UACJは需要の高まる“自動車用部材”を戦略商品と位置付け、多様な用途への対応に取り組んでいます。

パネル材とは

パネル材とは、ボンネットやドア、ルーフなどの外装材のことです。



北米で、パネル材製造ラインが本格稼働

ひとたび量産車のボディパネルの採用が決まれば、需要は一挙に増大します。そこでUACJは欧州の大手アルミニウムメーカーとの合弁で北米にパネル材の製造販売会社を設立。2016年6月に稼働を開始した新工場は、北米のグループ会社が運営する世界最大級のアルミニウム工場から安定的に母材の供給を受け、日・米・欧の自動車メーカー向けに生産を開始しました。

北中米で、自動車用構造材のNo.1ブランドを取得

2016年4月、自動車用構造材の分野で北米No.1のブランド「Whitehall Industries」を当社グループに迎えました。当社グループの北中米における構造材のシェアは50%を超え、市場における存在感が高まりました。一方で、グループシナジーによって生産技術や研究開発力が強化された同社は、今後、EVメーカーや日系メーカーなどへも取引を拡大していきます。

構造材とは

構造材とは、ボディフレームやサンルーフレールなど骨格を成す部材です。



パネル材、構造材、熱交
包括的に供給する

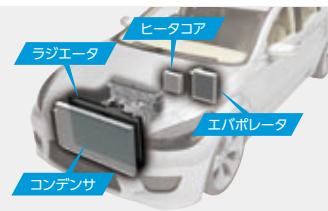
“自動車の軽量化ソリューション・プロバ

欧州・中国を中心に 熱交換器材供給体制を強化

欧州における熱交換器材の供給体制を強化するため、2015年12月にギリシャ企業との共同出資によりドイツに販売会社を設立しました。同様に、中国市場においても2016年2月に現地の製造会社への出資比率を25%から49%に引き上げるとともに、上海に販売会社の設立を決定。国内やタイ、米州の拠点も含めたグローバルな供給体制を構築し、さらなる拡販を目指します。

熱交換器材とは

熱交換器材とは、エンジンの熱を放出し温度を一定に保つラジエータの材料などを指します。



TOPICS

換器材を

自動車用部材の
国内における
中心拠点へ

当社グループでは、最適生産体制の構築に向けて、国内生産拠点において生產品種の移管・集約を進めており、名古屋製造所は、自動車用部材を中心とした一般材の生産に特化してきました。国内でも自動車用アルミニウム材の需要が増加するなか、同製造所を“自動車用部材の国内における中心拠点”と位置付け、設備の増設とともに生産性改善活動を推進し、当期中には生産量を増強する計画です。

イダー”へ

連結財務諸表

連結貸借対照表

単位：百万円(四捨五入)

| 科目 | 期別 前連結会計年度 (2016年3月31日) | 当第2四半期 連結会計期間 (2016年9月30日) |
|--------------|-------------------------------|----------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 263,409 | 243,445 |
| 固定資産 | 399,135 | 396,522 |
| 有形固定資産 | 292,904 | 286,649 |
| 無形固定資産 | 60,812 | 66,133 |
| 投資その他の資産 | 45,419 | 43,740 |
| 資産合計 | 662,543 | 639,966 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 249,784 | 215,755 |
| 固定負債 | 234,177 | 260,651 |
| 負債合計 | 483,961 | 476,406 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | 153,931 | 154,805 |
| その他の包括利益累計額 | 11,100 | △ 3,654 |
| 非支配株主持分 | 13,552 | 12,409 |
| 純資産合計 | 178,582 | 163,561 |
| 負債純資産合計 | 662,543 | 639,966 |

連結損益計算書

単位：百万円(四捨五入)

| 科目 | 期別 前第2四半期 連結累計期間 (2015年4月1日～ 2015年9月30日) | 当第2四半期 連結累計期間 (2016年4月1日～ 2016年9月30日) |
|------------------|--|--|
| 売上高 | 291,383 | 278,863 |
| 売上原価 | 257,115 | 242,923 |
| 売上総利益 | 34,267 | 35,940 |
| 販売費及び一般管理費 | 25,376 | 25,547 |
| 営業利益 | 8,891 | 10,394 |
| 営業外収益 | 1,223 | 1,315 |
| 営業外費用 | 2,790 | 4,320 |
| 経常利益 | 7,323 | 7,389 |
| 特別利益 | 1,306 | 119 |
| 特別損失 | 275 | 992 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 8,354 | 6,516 |
| 法人税等合計 | 3,754 | 3,913 |
| 四半期純利益 | 4,600 | 2,603 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 269 | 437 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 4,331 | 2,166 |

連結包括利益計算書

単位：百万円(四捨五入)

| 科目 | 期別 前第2四半期 連結累計期間 (2015年4月1日～ 2015年9月30日) | 当第2四半期 連結累計期間 (2016年4月1日～ 2016年9月30日) |
|----------|--|--|
| 四半期純利益 | 4,600 | 2,603 |
| その他の包括利益 | △ 452 | △ 16,155 |
| 四半期包括利益 | 4,148 | △ 13,552 |

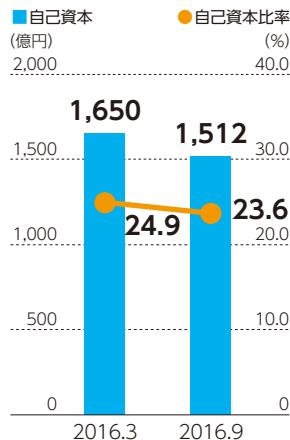
連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円(四捨五入)

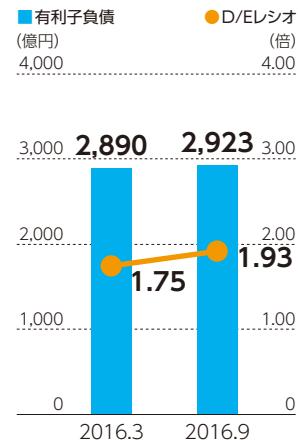
| 科目 | 期別 | 前第2四半期 連結累計期間 (2015年4月1日～ 2015年9月30日) | 当第2四半期 連結累計期間 (2016年4月1日～ 2016年9月30日) |
|------------------------------|----------------------|--|--|
| | 営業活動による キャッシュ・フロー | | 8,048 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | △ | 18,627 | 37,593 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | | 4,417 | 13,038 |
| 現金及び現金同等物に係る 換算差額 | | 130 | △ 189 |
| 現金及び現金同等物の 増減額(△は減少) | △ | 6,032 | 3,111 |
| 現金及び現金同等物の 期首残高 | | 20,949 | 18,814 |
| 連結の範囲の変更に伴う 現金及び現金同等物の増減額 | | — | 33 |
| 現金及び現金同等物の 四半期末残高 | | 14,917 | 15,736 |

主要連結経営指標

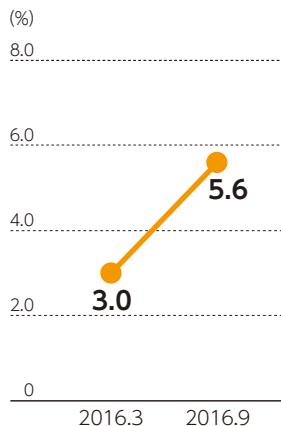
自己資本／自己資本比率



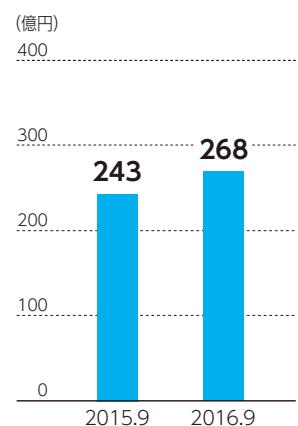
有利子負債／D/Eレシオ



ROE※1



Adjusted EBITDA※2



※1 年ベース換算値

※2 Adjusted EBITDA: EBITDA - 棚卸評価関係

会社データ

| | |
|-------------|---|
| 名 称 | 株式会社UACJ (英文名:UACJ Corporation) |
| 事業内容 | アルミニウム・銅等の非鉄金属及びその合金の 圧延製品・鋳物製品・鍛造製品並びに加工品の 製造・販売など |
| 資本金 | 450億円 |

拠点一覧

| | |
|--------------|---|
| 本 社 | 東京都千代田区大手町1丁目7番2号 東京サンケイビル |
| 製 造 所 | 名古屋(愛知県)/福井(福井県)/ 深谷(埼玉県)/日光(栃木県) |
| 支社・支店 | 中部支社(愛知県)/関西支社(大阪府)/ 九州支社(福岡県) 北海道支店(北海道)/静岡支店(静岡県) |
| 研 究 所 | 技術開発研究所(愛知県) |

役員一覧

| | | | | | |
|--------------|----------------|--------|-------------|--------|-------|
| 取 締 役 | 代表取締役会長 | 山内 重徳 | 執行役員 | 専務執行役員 | 白石 重和 |
| | 代表取締役社長兼社長執行役員 | 岡田 満 | | 楠本 昭彦 | |
| | 取締役兼副社長執行役員 | 伊東 修二郎 | | 常務執行役員 | 松浦 達郎 |
| | 取締役兼専務執行役員 | 荘司 啓三 | | 執行役員 | 清水 洋二 |
| | | 中野 隆喜 | | | 福井 裕之 |
| | 取締役兼常務執行役員 | 田中 清 | | | 新堀 勝康 |
| | | 土屋 博範 | | | 種岡 瑞穂 |
| | | 渋谷 和久 | | | 山口 明則 |
| | | 長谷川 久 | | | 阿部 禎一 |
| | | 石原 美幸 | | | 川島 輝夫 |
| | 取締役兼執行役員 | 鈴木 俊夫 | 田口 正高 | | |
| | 取締役(社外、非常勤) | 杉山 涼子 | 手島 雅裕 | | |
| | | 石原 宣宏 | 今泉 明人 | | |
| 監 査 役 | 常勤監査役 | 加藤 一正 | 松下 彰 | | |
| | | 浅野 明 | 稲垣 公樹 | | |
| | 監査役(社外、非常勤) | 佐藤 哲哉 | 吉田 明典 | | |
| | | 曾根 貴史 | 細見 和弘 | | |
| | | 松村 篤樹 | 大谷 隆英 | | |
| | | | 竹川 幸男 | | |
| | | | 桑本 由紀浩 | | |

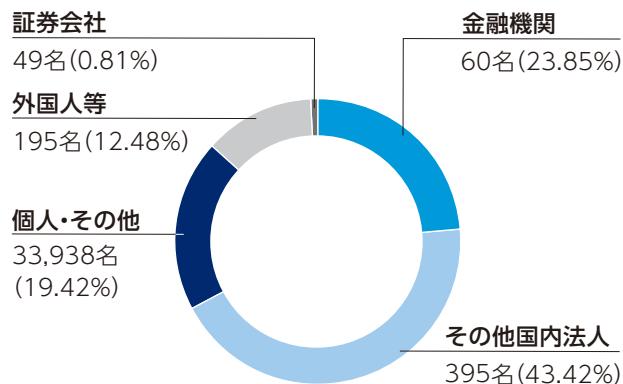
基本情報

| | |
|----------|--|
| 上場市場 | 東証 |
| 証券コード | 5741 |
| 株式の売買単位 | 1,000株 |
| 発行可能株式総数 | 1,700,000,000株 |
| 発行済株式総数 | 428,281,934株 ※自己株式639,963株を含む |
| 株主数 | 34,637名 |
| 決算期日 | 3月31日 |
| 定時株主総会 | 6月下旬 |
| 株主確定基準日 | 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 |
| 株主名簿管理人 | みずほ信託銀行株式会社 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 |
| 公告方法 | 電子公告 http://www.uacj.co.jp/ (やむを得ない事由により、電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載します) |

大株主

| 株主名 | 持株数(千株) | 持株数比率(%) |
|--------------------------------|---------|----------|
| 古河電気工業株式会社 | 120,365 | 28.10 |
| 新日鐵住金株式会社 | 37,446 | 8.74 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 31,151 | 7.27 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 18,462 | 4.31 |
| 住友商事株式会社 | 7,500 | 1.75 |
| 株式会社みずほ銀行 | 7,331 | 1.71 |
| 株式会社三井住友銀行 | 7,330 | 1.71 |
| UACJグループ従業員持株会 | 6,763 | 1.57 |
| JP MORGAN CHASE BANK 380634 | 5,721 | 1.33 |
| UACJ共栄会 | 4,858 | 1.13 |

所有者別の構成比率(株式数比率)



データ大容量時代を支える HDD用アルミニウム

動画や音楽など大容量コンテンツがネットワーク上で大量にやり取りされるとともに、身の回りのあらゆるものがインターネットにつながるIoT (Internet of Things) 社会が到来するなかで、社会全体のデータ量が加速度的に増加しています。これまでとは比較にならない大量のデータを確実に保存・管理するため、記録メディアの大容量化が進んでおり、その主役とされるHDD (ハードディスクドライブ) では、記録密度の上昇率が年

平均40%を示すほど。これにともない、データを書き込む磁気ディスクの素材となるアルミニウムへの要求品質も年々高まっています。

クラウド・コンピューティングの普及を背景に急成長を遂げているデータセンターや、超長時間録画を可能にする家庭用レコーダーなどを中心に、HDD市場は堅調な成長を続けており、その基板材料として、高品質なアルミニウムを求める声は高まり続けているのです。

大容量化を可能にしたHDDが便利な世の中を実現

家庭で 高画質映像の保存に



病院で 電子カルテの普及に



オフィスで ビッグデータの解析に



街で

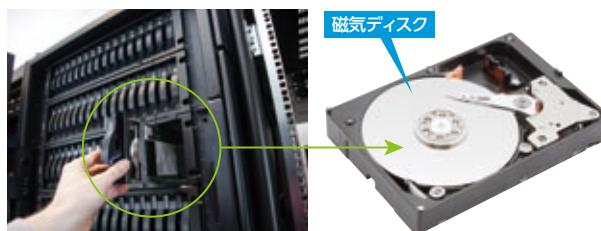


ちょこっと解説

アルミニウムは、HDDのどこに使われているの？

磁気ディスクの基板に使われています。

HDDは、磁性体を塗布したディスクにデータを記録し、高速回転させながら磁気ヘッドで読み取る仕組みです。このため磁気ディスクの素材には、ディスク表面の磁性膜に影響しない「非磁性」や、高速回転に適した「軽量性」が求められます。アルミニウムはこの両者を兼ね備えた素材として、磁気ディスクの基板となる「ブランク材」の材料に使用されています。



Close Up

車で カーナビに



アプリの使用に

HDD用アルミニウム材を製造するのは世界で2社だけ! その1社がUACJです。

磁気ディスクの表面に凹凸やキズがあると、データの記録や呼出に不具合が生じることから、ブランク材にはハイレベルな平坦性や無欠陥性が求められます。近年、HDDの大容量化に向けて磁気記録の高密度化が進むなか、これらの品質要求はより高度化しており、ミクロン単位の歪みも許されないほど。これだけ厳しい精度要求に応えられる企業は世界でも限られており、現在ではUACJを含めた日本企業2社だけが製造しています。

このコーナーでは、国内外の拠点について紹介しています。
今回は、新たに当社グループに加わった
UACJ Automotive Whitehall Industries, Inc. (UWH) を紹介します。

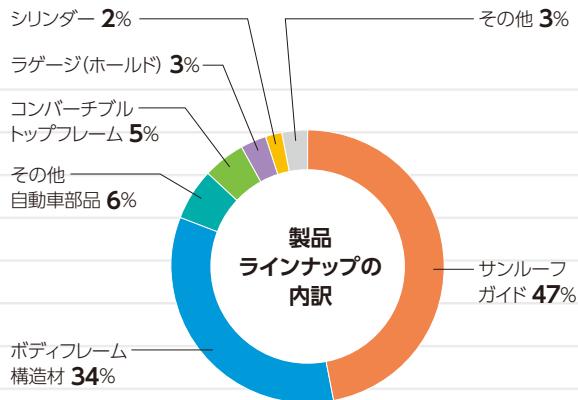


高い押出加工技術と生産能力を駆使し、 自動車用構造材分野で北米No.1ブランドを確立

当社は、自動車用のアルミニウム構造材の分野で50%以上の市場シェアを誇り、北米No.1のブランドとして知られています。その最大の要因は、製品の開発・生産に必要な機器を自ら設計していること。こうした独自のものづくりが、他社には真似できない価値を生み出しているのです。2016年4月にUACJグループに加わりましたが、当社が北米市場で培ってきた技術と信頼性が、UACJグループのグローバルな発展に大きく寄与するものと考えています。

自動車需要が急増するメキシコ事業に加え、 EVメーカーや日系メーカーとのビジネスを検討

燃費規制の強化を背景に自動車の軽量化トレンドが加速するなか、当社は北米市場に加えてメキシコにも事業を展開。また、電気自動車(EV)など新たな領域にも挑戦していきます。UACJグループには、日系はもちろん世界各地の自動車メーカーとの取引実績がありますので、その一員となったことは大きなチャンスだと考えています。



UWHって、どんなところにあるの？

当社が本社を置くミシガン州ラディントンには、ミシガン湖に面した小さな街です。州立公園のある自然豊かな環境で、「世界で最も美しい木のトンネル」の一つに選ばれたカエデ並木や、一風変わった白黒ツートンカラーの灯台など、周囲には見所がたくさん。夏場は湖でのフィッシングが盛んで、当社社員もサーモンフィッシングを楽しんでいます。



株主プラザ

Stockholder Plaza

株主の皆様とのコミュニケーションの場として、最新の情報を発信します。



株主様向け工場見学会を開催しました

福井製造所において、2016年10月23日に個人株主様を対象とした工場見学会を開催しました。中野取締役兼専務執行役員からのあいさつ、製造所長の石原取締役による工場の説明から始まり、続けて熱間・冷間圧延ラインなどの主要設備とショールームをご覧くださいました。終了後のアンケートでは、見学会について95%の参加者から「満足」との回答をいただきました。当工場見学会は毎回好評をいただいていることから、名古屋・福井製造所での年2回の開催としました。今後も当社事業を知っていただけるよう、継続的に工場見学会を行っていきます。



参加者からいただいたコメント(一部抜粋)

- 大変丁寧な説明を受け、感銘しました。
- とてもクリーンでよかった。
- アルミの用途が広がるのがよくわかりました。



ALUMINIUM CHINA 2016に出展しました

アジア最大規模のアルミニウム産業展「ALUMINIUM CHINA」に今年も出展しました。例年500社近くが出展し、2万人ほどの入場者数を誇る展示会です。今年の当社ブースでは自動車用部材やLNG船向けタンク材、IT筐体用材を中心に高機能で高品質な製品を展示。多くの方に



当社の製品や技術開発力を紹介させていただきました。引き続き、このような展示会への出展を通じて、中国、ひいてはアジアにおけるプレゼンス拡大に努めていきます。



「株主様向けアンケート」にご協力ください

株主の皆様とのコミュニケーション促進を目的に、定期的に「株主様向けアンケート」を実施しています。いただいた回答は「株主の皆様へ」の制作をはじめ、IR活動の充実に活かしていきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

表紙の写真について



2016年4月に当社グループに迎えた米国の自動車構造材の製造販売会社UACJ Automotive Whitehall Industries, Inc.の工場の写真です。今号の特集で紹介したように、この会社が加わったことでUACJは構造材も扱えるようになり、自動車用部材のラインナップが拡充。“自動車の軽量化ソリューション・プロバイダー”となるうえで欠かせない存在です。

株式会社UACJ

〒100-0004 東京都千代田区大手町1丁目7番2号
東京サンケイビル
Tel. 03-6202-2600(代表) Fax. 03-6202-2021
<http://www.uacj.co.jp/>



単元未満株式の買取制度のご案内

当社では、単元株制度を採用しており、1単元は1,000株とさせていただきます。

単元未満株式(1~999株)は議決権がなく、また証券市場にて売買することができません。

単元未満株式につきましては、法律および当社定款・株式取扱規則の規定に基づき単元未満株式の買取制度をご利用いただけます。

※2016年12月31日までの期間限定で、単元未満株式の買取請求に際して当社にお支払いいただく**買取手数料を無料**としていますが、**2017年6月30日まで延長**いたします。

証券口座に株式をご所有の株主様

お取引の証券会社にお問い合わせください。

特別口座に株式をご所有の株主様

下記の通り、お問い合わせください。

●旧住友軽金属工業の株式をお持ちであった株主様

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
(土・日・祝日を除く 9:00~17:00)

●旧古河スカイの株式をお持ちであった株主様

みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話 0120-288-324(フリーダイヤル)
(土・日・祝日を除く 9:00~17:00)

確定申告の際には、同封の配当金計算書をご利用いただけます。株式数比例配分方式を選択された株主様については、お取引の証券会社にご確認ください。